

開講年度	令和8年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態外科学特別演習 I		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	<p>(胸部外科学) 虚血性心疾患、大動脈疾患、肺癌、乳癌  (消化器外科学) 消化器癌、癌遺伝子、リキッドバイオプシー  (脳神経外科学) 脳卒中、脳腫瘍  (整形外科学) 運動器、構造、機能  (形成外科学) 創傷治癒  (泌尿器科学) 泌尿器科学  (生殖病態医学) 妊娠高血圧症候群、婦人科腫瘍  (視覚病態眼科学) 眼組織創傷治癒  (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症  (皮膚病態学) 皮膚  (口腔顎顔面外科学) 歯科口腔外科疾患</p>		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	<p>(胸部外科学) 教授 西村好晴、准教授 本田賢太郎、准教授 平井慶充、講師 上松耕太、助教 宮坂美和子  (消化器外科学) 教授 川井 学、准教授 松田健司、講師 速水晋也、講師 早田啓治、講師 三谷泰之  (脳神経外科学) 教授 中尾直之、准教授 深井順也、講師 中井康雄、講師 佐々木貴浩  (整形外科学) 教授 山田 宏、講師 長田圭司、講師 石元優々、講師 西山大介、講師 福井大輔、講師 下江隆司、講師 寺口真年  (形成外科学) 教授 朝村真一  (泌尿器科学) 教授 柑本康夫  (生殖病態医学) 教授 井篁一彦、准教授 南 佐和子、准教授 馬淵泰士  (視覚病態眼科学) 教授 雑賀司珠也、教授 岡田由香、准教授 住岡孝吉、准教授 小門正英、准教授 田中才一  (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 教授 保富宗城、准教授 玉川俊次、准教授 河野正充  (皮膚病態学) 教授 神人正寿、准教授 山本有紀  (口腔顎顔面外科学) 教授 松村達志、助教 田坂ゆかり</p>	
	薬		
授業の概要	<p>胸部外科学、消化器外科学、脳神経外科学、整形外科学、形成外科学、泌尿器科学、生殖病態医学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚病態学、口腔顎顔面外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p>		

到達目標	<p>(胸部外科学) 冠動脈バイパス術のグラフト評価法、胸部大動脈瘤の脳保護法、呼吸器外科、および乳癌診療における臨床上の問題点について高い知識を修得する。</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌分野における癌の浸潤・転移あるいは抗癌剤耐性などに関する遺伝子解析および腫瘍特異的免疫療法に関するそれぞれのテーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。そしてそれらのテーマに関する基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p> <p>(脳神経外科学) 脳神経外科における主要テーマである脳卒中や脳腫瘍について文献を読み、教員と議論することによりこれらの病態を理解する。また脳卒中や脳腫瘍における基礎・臨床研究の手法を修得する。</p> <p>(整形外科学) 運動器の正常構造と機能を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(形成外科学) 創傷治癒が外科学の基本であることを理解する。</p> <p>(泌尿器科学) 外国語論文の読み方、解釈方法を理解する。</p> <p>(生殖病態医学) 生殖病態医学に関する最新の知見を学習し、生殖病態医学に関する理解を深める。</p> <p>(視覚病態眼科学) 研究領域とその背景の知識及び基礎研究、臨床研究のノウハウを修得する。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の疾患の病態を理解し、感覚・機能・頭頸部腫瘍に関する基礎・臨床研究に必要な知識と手技を修得する。</p> <p>(皮膚病態学) 各種疾患における皮膚の重要性を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 代表的な歯科口腔外科疾患を理解し、口腔疾患の診断、治療に関する基礎的技術を修得する。</p>
授業計画	<p>(胸部外科学) 胸部大動脈瘤における脳保護法、冠動脈バイパス術におけるグラフト評価法の最近の動向を解説する。(西村好晴/本田賢太郎/上松耕太) 近年進歩が著しい呼吸器外科の低侵襲アプローチについての講義を行い、文献的考察を通して、臨床研究に関する議論を行う。(平井慶充) 乳癌診療における臨床上の問題点を通じて、臨床研究に関する議論を行う。(宮坂美和子) (西村好晴/本田賢太郎/平井慶充/上松耕太/宮坂美和子)</p> <p>(消化器外科学) 消化器癌に対する癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する研究について、研究手法などの演習を行う。(川井 学/松田健司) リキッドバイオプシーを用いた消化器癌の予後予測因子に関するバイオマーカーの開発に関する研究について、研究手法などの演習を行う。(三谷泰之) 腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状細胞療法)に関する研究について、研究手法などの演習を行う。(速水晋也/早田啓治) (川井 学/松田健司/速水晋也/早田啓治/三谷泰之)</p>

授業計画	<p>(脳神経外科学) 脳神経外科における主要テーマである脳卒中や脳腫瘍の病態、予防、治療について講義を行う。(中尾直之/深井順也/中井康雄/佐々木貴浩)</p> <p>(整形外科学) 運動器の構造と機能に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、運動器に関する理解を深める。 1. 運動器総論：加齢と運動機能 (山田 宏) 2. 頸椎の構造と機能 (長田圭司) 3. 腰椎の構造と機能 (石元優々) 4. 股関節・足関節の構造と機能 (西山大介) 5. 膝関節の構造と機能 (福井大輔) 6. 上肢の構造と機能 (下江隆司) (山田 宏/長田圭司/石元優々/西山大介/福井大輔/下江隆司/寺口真年)</p> <p>(形成外科学) 創傷治癒のメカニズムの理解は、基礎研究において重要である。外科学の基本である創傷治癒のメカニズム及び創傷の管理について演習を行う。(朝村真一)</p> <p>(泌尿器科学) 泌尿器科領域に関する論文を読み、内容についてディスカッションする。(柑本康夫)</p> <p>(生殖病態医学) 生殖病態医学に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、生殖病態医学に関する理解を深める。(井篁一彦/南佐和子/馬淵泰士)</p> <p>(視覚病態眼科学) 眼組織の感染症や外傷後の生体反応などに関する発表論文を読み、教員と議論する。眼の生体反応に関するマウスを用いた基礎研究の手法について指導する。基礎研究に関連した臨床病態を科学的に解析するための臨床研究立案と実施のノウハウを指導する。(雑賀司珠也/岡田由香/住岡孝吉/小門正英/田中オ一)</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 1. 聴覚、平衡覚 (河野正充)、嗅覚・味覚 (保富宗城) 聴覚、平衡覚の機序、人工内耳など聴覚研究の最新情報と聴覚評価法、嗅覚・味覚の機序、嗅覚障害動物モデルの作成と嗅覚行動検査法について解説する。 2. 嚥下機能 (玉川俊次) 嚥下機序の解説と評価法、嚥下障害の評価法と嚥下改善手術について解説する。 3. 頭頸部癌・甲状腺癌 (玉川俊次) 頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EBウイルスによる発癌機序、頭頸部癌の転移機序、甲状腺癌における遺伝子変異について解説する。 4. 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症 (保富宗城) 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の原因微生物、動物感染モデルの作成について解説する。小児急性中耳炎の難治化機序、解析法について解説する。また耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。(保富宗城/玉川俊次/河野正充)</p> <p>(皮膚病態学) 皮膚疾患の病態、診断、治療についての最新の知見について考察し、理解を深める。(神人正寿/山本有紀)</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 代表的な歯科口腔外科疾患について解説する。(松村達志/田坂ゆかり)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。

<p>授業時間外の学修に関する指示</p>	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）</p>	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>(胸部外科学) 特に指定しない。</p> <p>(消化器外科学) 【教科書・参考書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(脳神経外科学) 特に指定しない。</p> <p>(整形外科学) 特に指定しない。</p> <p>(形成外科学) 【教科書】「標準形成外科学」 編集：秦 維郎、野崎幹弘 出版社：医学書院</p> <p>(泌尿器科学) 特に指定しない。</p> <p>(生殖病態医学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(視覚病態眼科学) 特に指定しない。</p> <p>(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】「新耳鼻咽喉科学」著者：切替一郎、 監修・編集：野村恭也、加我君孝、出版社：南山堂 英文誌「Laryngoscope」 出版社：Wiley Online Library</p> <p>(皮膚病態学) 【教科書】「あたらしい皮膚科学」 著者：清水宏 出版社：中山書店</p> <p>(口腔顎顔面外科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>